

名古屋市感染症発生動向調査情報

2018年(平成30年)第19週(2018年5月7日~5月13日)

名古屋市感染症情報センター(名古屋市衛生研究所疫学情報部) 2018年5月16日作成

<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-3-0-0-0-0-0-0-0.html>

◆本市の状況

〔定点把握感染症の発生動向〕

- 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、前週の1.4人から3.1人に増加した。
- A群溶結性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、前週の0.7人から1.6人に増加した。
- 咽頭結膜熱の定点当たり患者報告数は、前週の0.2人から0.3人に増加した。

〔1類~5類全数把握感染症の届出〕

診断週	感染症の分類	疾患	発生数	発生の概要
2018年 第19週	2類	結核	11	<ul style="list-style-type: none">• 女性、26歳、結核性胸膜炎及び胸囲結核• 男性、85歳、肺結核• 男性、42歳、肺結核• 女性、33歳、肺結核• 男性、69歳、肺結核• 女性、67歳、肺結核• 女性、56歳、無症状病原体保有者• 男性、33歳、無症状病原体保有者• 女性、36歳、無症状病原体保有者• 女性、55歳、無症状病原体保有者• 女性、45歳、無症状病原体保有者
2018年 第19週	3類	腸管出血性大腸菌 感染症	1	<ul style="list-style-type: none">• 男性、31歳、無症状病原体保有者、O91、VT1、感染地域：名古屋市
2018年 第19週	4類	レジオネラ症	1	<ul style="list-style-type: none">• 男性、66歳、肺炎型、感染地域：岐阜県
2018年 第19週	5類	急性脳炎	1	<ul style="list-style-type: none">• 男性、4歳、病原体不明

2018年 第19週	5類	侵襲性肺炎球菌感染症	4	<ul style="list-style-type: none"> 女性、82歳、菌検出検体：血液 女性、35歳、菌検出検体：血液 女性、79歳、菌検出検体：血液 女性、0歳、菌検出検体：血液
2018年 第19週	5類	梅毒	3	<ul style="list-style-type: none"> 男性、34歳、早期顕症梅毒（1期） 男性、26歳、早期顕症梅毒（2期） 男性、43歳、早期顕症梅毒（2期）
2018年 第19週	5類	百日咳	1	<ul style="list-style-type: none"> 女性、51歳、検査方法：抗体の検出、感染地域：名古屋市
2018年 第19週	5類	麻疹	6	<ul style="list-style-type: none"> 女性、20歳代、検査診断例、感染地域：名古屋市 女性、10歳代、検査診断例、感染地域：名古屋市 女性、10歳代、検査診断例、感染地域：名古屋市 男性、2歳、検査診断例、感染地域：名古屋市 男性、20歳代、検査診断例、感染地域：名古屋市 男性、30歳代、検査診断例、感染地域：名古屋市

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

報告日が遅れたため先週号までに掲載されなかった1類から5類全数報告感染症。

診断週	感染症の分類	疾患	発生数	発生の概要
2018年 第18週	2類	結核	5	<ul style="list-style-type: none"> 男性、85歳、肺結核 男性、53歳、肺結核 男性、39歳、無症状病原体保有者 男性、58歳、無症状病原体保有者 女性、26歳、無症状病原体保有者

2018年 第18週	5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	<ul style="list-style-type: none"> 男性、79歳、菌検出検体：喀痰、菌種：<i>E.cloacae</i>、感染経路：不明
2018年 第18週	5類	後天性免疫不全症候群	2	<ul style="list-style-type: none"> 男性、23歳、無症状病原体保有者、感染経路：性的接触（同性間）、感染地域：大韓民国 男性、27歳、無症状病原体保有者、感染経路：性的接触（同性間）、感染地域：国内
2018年 第18週	5類	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	<ul style="list-style-type: none"> 女性、89歳、菌検出検体：血液
2018年 第17週	5類	梅毒	1	<ul style="list-style-type: none"> 男性、28歳、早期顕症梅毒（2期）
2018年 第16週	5類	アメーバ赤痢	1	<ul style="list-style-type: none"> 男性、59歳、腸管アメーバ症、感染経路：経口感染、感染地域：インドネシア
2018年 第14週	5類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	<ul style="list-style-type: none"> 男性、52歳、菌検出検体：血液

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

〔2018年1類～5類全数把握感染症の届出報告数の累計〕

感染症の分類	疾患	累計
1類感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、他	0
2類感染症	急性灰白髄炎	0
2類感染症	結核（潜在性結核感染症を含む）	206 (59) [1] 〔0〕〔1〕
2類感染症	ジフテリア	0
2類感染症	重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）	0
2類感染症	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る）	0
2類感染症	鳥インフルエンザ（H5N1）	0
2類感染症	鳥インフルエンザ（H7N9）	0
3類感染症	コレラ	0
3類感染症	細菌性赤痢	1

3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2 (1)
3 類感染症	腸チフス	0
3 類感染症	パラチフス	0
4 類感染症	E 型肝炎	2
4 類感染症	つつが虫病	1
4 類感染症	レジオネラ症	10
5 類感染症	アメーバ赤痢	11
5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	20
5 類感染症	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）	6
5 類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5
5 類感染症	後天性免疫不全症候群	29 (20) <0> [0]
5 類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	8
5 類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	37 [1]
5 類感染症	水痘（入院例に限る）	2
5 類感染症	梅毒	78 (22)
5 類感染症	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1
5 類感染症	百日咳	20
5 類感染症	麻しん	20

累計は 2018 年第 1 週からの診断週による累計、() 内は無症状病原体保有者累計数を再掲、[] 内は疑似症累計数を再掲、【 】内は感染症死亡者の死体累計数を再掲、〔 〕内は感染症死亡疑い者の死体累計数を再掲、< > 内は後天性免疫不全症候群の「その他」累計数を再掲。

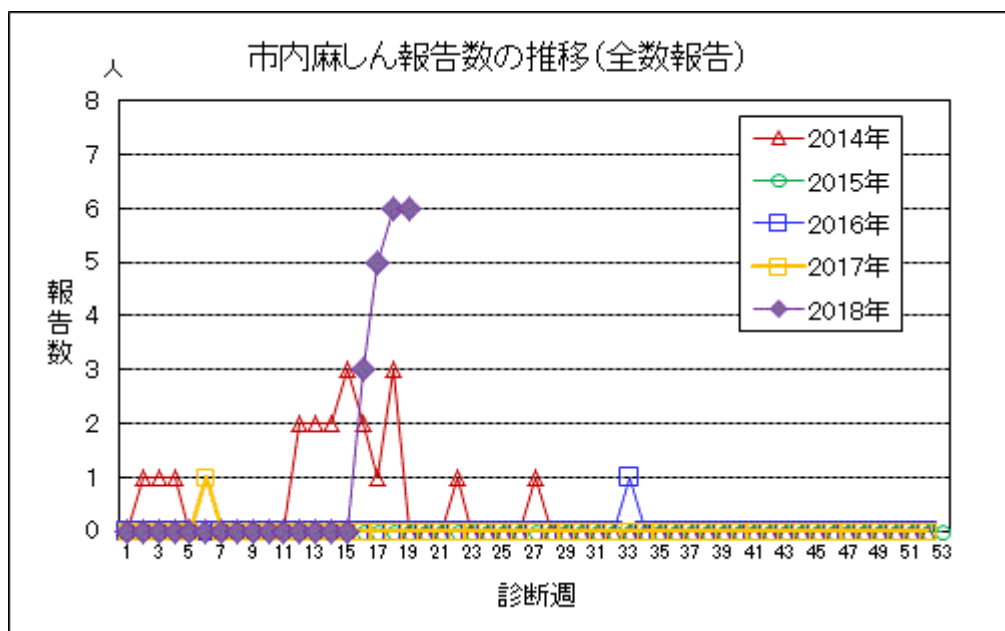
対象疾患が多いため、4 類及び 5 類感染症は報告のあった疾患のみを掲載。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

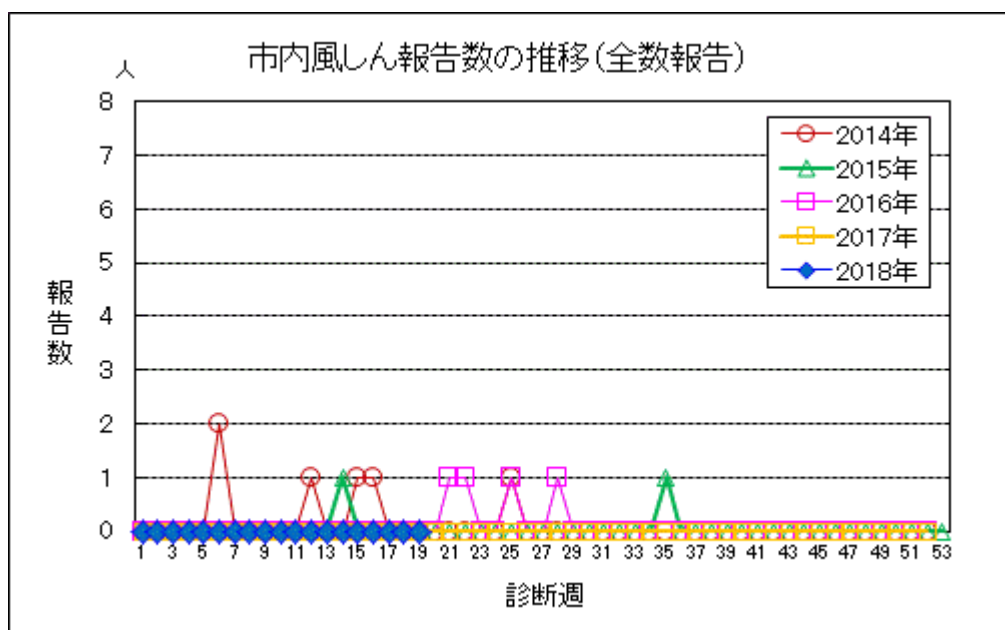
〔愛知県麻しん・風しん患者調査事業について〕

平成 20 年 1 月 1 日から、麻しん・風しんは全数把握対象疾患となりましたが、愛知県内では、感染症法に基づく届出では把握できない情報を得るため、医師会と協力して「愛知県麻しん・風しん患者調査事業」を実施しており、名古屋市も参加しています。調査結果については下記のリンク先（愛知県衛生研究所ホームページの中のコンテンツ <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl.html>）をご覧ください。

〔名古屋市の麻しん報告数〕



〔名古屋市の風しん報告数〕



〔定点医療機関からの情報〕

ヒトメタニューモ 1 歳女 3 名	定点医療機関（千種区）
ヒトメタニューモウイルス 1 名	定点医療機関（千種区）
ヒトメタニューモウイルス：6 ヶ月女、1 歳男、4 歳女@ア デノウイルス咽頭炎 4 歳男	定点医療機関（千種区）
9 歳男児：腸炎ビブリオ感染、6 歳男児：キャンピロバクテ ー感染。	定点医療機関（西区）
2 歳女児：病原性大腸菌 O-25	定点医療機関（熱田区）
インフルエンザ A 型 1 名でした。	定点医療機関（名東区）

上記、2018 年第 19 週の定点医療機関からのコメント情報を集計したところ、
インフルエンザ A 型 1 人でした。

◆2018年第19週 患者報告数(疾病区別)、定点あたり患者報告数(疾病区別)、年齢階層別患者報告数(疾病別)

患者報告数(名古屋市)

2018年第19週(2018年5月7日~5月13日)

疾患 \ 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計	前週比	過去比*
★インフルエンザ			2					1					4		1	1	9	0.5	0.3
○RSウイルス感染症	1		1	1	2												5	1.3	1.2
○咽頭結膜熱		1	3	3	1		2			3		3	3			1	20	1.5	0.8
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	3	9	6	7	1	1		3	12	11	6	13	7	14	9	110	2.3	1.4
○感染性胃腸炎	16		30	16	22	2	17		1	5	25	3	22	9	17	30	215	2.2	0.9
○水痘	2	1	3	8				1		1			3		2	3	24	1.3	1.2
○手足口病	1	2								2			1			1	7	7.0	0.5
○伝染性紅斑	1	1							1		1				1		5		0.6
○突発性発疹	3	2	3	3						1			2	1		1	16	1.5	1.0
○ヘルパンギーナ																	0		0.0
○流行性耳下腺炎		1	1										1				3	1.5	0.4
△急性出血性結膜炎																	0		0.0
△流行性角結膜炎					1												1		0.8
◇細菌性髄膜炎																	0		
◇無菌性髄膜炎																	0		
◇マイコプラズマ肺炎																	0		0.0
◇クラミジア肺炎																	0		
◇感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)							2										2	1.0	1.0
計	32	11	52	37	33	3	22	2	5	24	37	12	49	17	35	46	417		

*過去3年の同週の平均値との比

★インフルエンザ定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
○小児科定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
△眼科定点数	1		1	1	1			1	1	1			1		1	1	11		
◇基幹定点数			1				1			1							3		

★○△◇は定点種別を示す。

のセルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

定点あたり患者報告数、および流行警報・注意報発生状況(名古屋市)

2018年第19週(2018年5月7日~5月13日)

疾患 \ 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	平均
インフルエンザ			0.4										0.8		0.3	0.3	0.1
RSウイルス感染症	0.2		0.2	0.3	0.4			0.2									0.1
咽頭結膜熱		0.3	0.6	0.8	0.2		0.4			0.8		0.8	0.6			0.3	0.3
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.6	0.8	1.8	1.5	1.4	0.3	0.2		0.8	3.0	2.8	1.5	2.6	1.8	3.5	2.3	1.6
感染性胃腸炎	3.2		6.0	4.0	4.4	0.5	3.4		0.3	1.3	6.3	0.8	4.4	2.3	4.3	7.5	3.1
水痘	0.4	0.3	0.6	2.0				0.2		0.3			0.6		0.5	0.8	0.3
手足口病	0.2	0.5								0.5			0.2			0.3	0.1
伝染性紅斑	0.2	0.3							0.3		0.3				0.3		0.1
突発性発疹	0.6	0.5	0.6	0.8						0.3			0.4	0.3		0.3	0.2
ヘルパンギーナ																	
流行性耳下腺炎		0.3	0.2											0.2			0.0
急性出血性結膜炎																	
流行性角結膜炎					1.0												0.1

警報対象疾患	流行発生警報		流行発生注意報
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	7	4	4
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

流行警報・注意報について

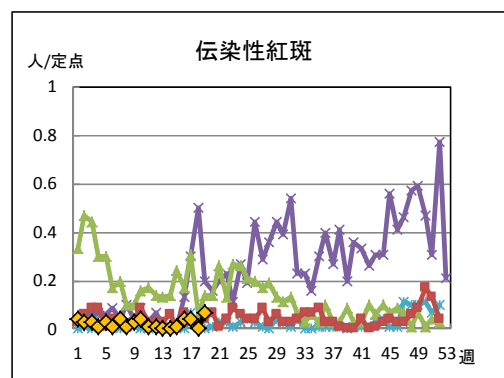
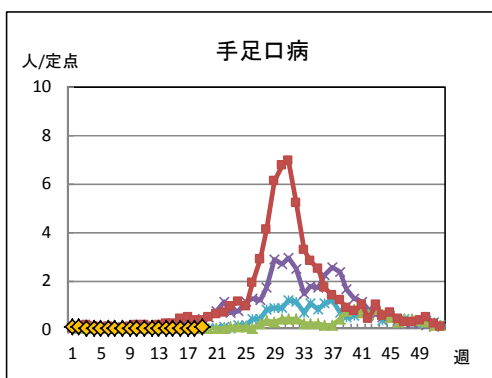
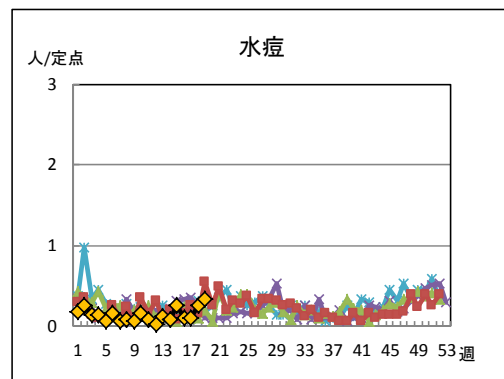
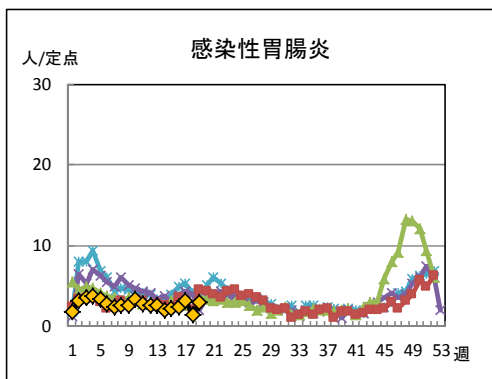
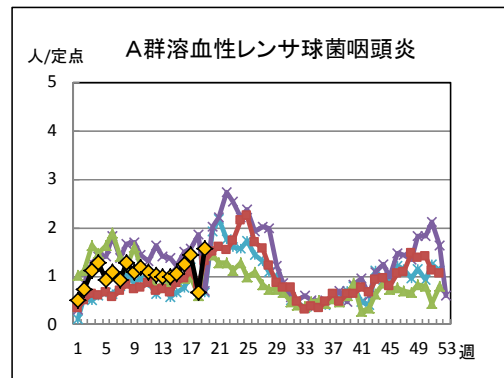
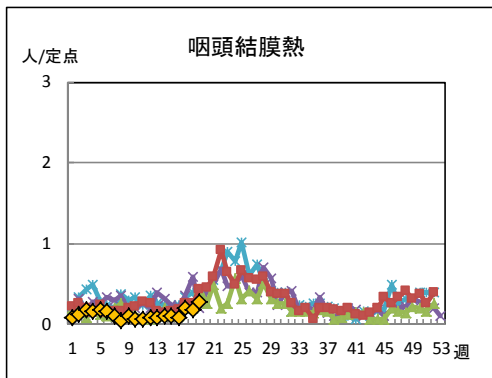
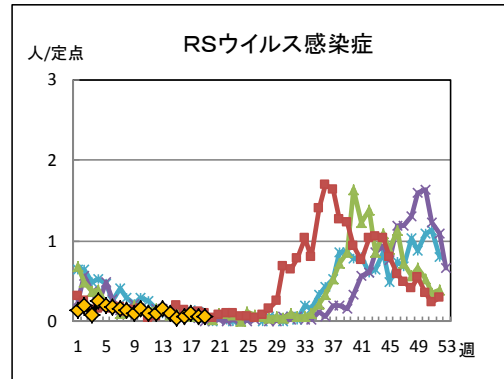
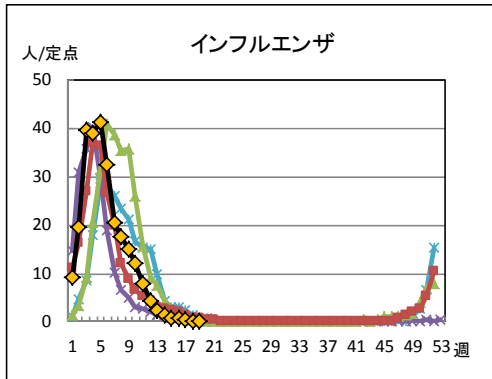
■ 太字の数字 は流行発生警報

■ 斜体の数字 は流行発生注意報

■ 警報及び注意報の発生は、厚生労働省の感染症発生動向調査における警報発生システムの基準値(左表)に準拠しています。なお基準値は、変更される場合や当センターの判断で、独自の設定に変更する場合があります。

■ この警報及び注意報は、感染症発生動向調査に関わる専門家の対策立案を支援するためのものです。詳しい目的、利用法等については当情報センターにご連絡ください。

◆小児科・インフルエンザ・眼科定点医療機関からの
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(1) 2018年第19週まで



◆小児科・インフルエンザ・眼科定点医療機関からの
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(2) 2018年第19週まで

